

# 丸山湿原群保全の会会報

(第155号)

発行日：2020年(R2)6月17日 編集/発行：丸山湿原群保全の会  
〒669-1211 宝塚市大原野字炭屋1-1 西谷地区まちづくり協議会事務局内

TEL/Fax0797-91-1788  
090-1895-8061 (今住)

E-mail：[maruyamashitugengun@gmail.com](mailto:maruyamashitugengun@gmail.com)

梅雨の時期を迎え、雨や曇りがちの日が増えてきました。「五月雨の降り残してや光堂」は松尾芭蕉の俳句。「おくのほそ道」平泉。「金色堂のすばらしさ(輝)に梅雨も避けて降っていたのだろうか」か？長雨は湿り気と呼び、気温と相まって腐敗菌を活発にさせてしまいます。金の殺菌効果か、大切にされてきたからなのか。平安時代の建物が江戸前期(元禄)までそして現代にまで残っていることに驚かされます。行ったことはありませんが…今は完全管理の覆い屋の中。雨が降っているのかもわからないでしょうね。知らんけど…

江戸時代といえば西谷に多い「ため池」。谷あいの地に谷をせき止めた「谷池」。大きなものは江戸時代初期に作られたものがほとんどのようです。小さな「野池」はいつできたのでしょうか？大きな池の技術を応用し作ったとも。それとも室町時代？鎌倉時代？いずれにせよ、谷筋に滲み出てきた水を漏らさぬようにし、溜めたもの。丸山湿原の成立条件とよく似ています。

雨の少ない地域、適当な時期に適度に降ってほしいものです。ちなみに、13日の雨までは小さなため池は危機的状況でした。うちだけか…？

(今住 6月16日作成)

## 定期活動

★5月24日(日)定期活動 6名で活動 ササ刈り

コロナの緊急事態宣言解除に伴い通常活動です。ただし他府県移動は自粛ということで、来たい人も来づらい状況があるようです。元々参加者少ないから来てほしい…

前回は連絡しましたが、訪問者が急増！善意、悪意にかかわらず竹筒ポストは満杯。とりあえずあふれかえっている市外訪問者だけ中間集計しました。その数84名。次回の測定日にはどうなっているのでしょうか？

今回は作業日。ということで前回の続き。ポスト前の平場処理。柘植)。そのほかどんな木があるのか確認しながらの作業です。あまり今まで気にしていなかったのですが、コシアブラ(漉し油)



コシアブラの葉 (2017年10月) 掌状複葉

の大きな木が意外に多くありました。「山菜の女王」といわれる木。比較的寒い地域(高所)に多いようです。西谷には少ない。ちなみに「王様」は〇〇の芽。トゲトゲの木。これは取り合いですね。加えてどこにでもあるタカノツメ(鷹の爪)も美味しいらしい。しかし通に言わせれば、「女王様」「王様」とは天



あふれる小石を中間集計  
基本ターゲットはイヌツゲ(犬



イヌツゲの伐採



タカノツメの葉(4月) 3出複葉

気にせずバッサバッサと伐る人。気にせず伐って、帰ってからなんか変な感じになる人。近くにいるだけでかぶれる人。人は多様性に満ちていますね。実を好んで食べる鳥もいたり。材木は役にたたなかったり。でも紅葉はきれいですよ。

ちなみにヤマウルシは「漆」なのですが、「漆器」に使われる漆



ヤマウルシ 奇数羽状複葉

とは別物。そちらは「ウルシノキ= ソーシャルディスタンス?安全距離漆の木」という近縁種だそうです。歴史的には弥生時代から使われていたようです。すごいですね。しかし、自生はない?自然素材最強の接着剤でもあります。現在は中国産が97%以上。といっても高価で、下塗り中塗りはカシューやウレタンが多いとか。寂しいかぎりです。が、職人の技で勝負!

**ヤマウルシは歩道沿いにもたくさん芽吹いています。弱い方は気を付けてください。赤い枝で写真のように広がります。羽状複葉というそうです。1つの軸が1枚の葉です。「複葉」というのは中学校で習っているはずなのですが、全く覚えていない方がほとんど。私も35歳ぐらいまで記憶になかった。1枚の葉が細かく小さな葉?に分かれていることか?またまた知らんけど... (責任回避)。先に1つ小さな葉(小葉)がつくと奇数になるので、奇数羽状複葉というそう。当然偶数もあり。なんかエライ勉強やな。中学生諸君!記憶にとどめよ!興味なかったら忘れるけどね。見分け方としては便利。「女王様」は「掌状複葉」なので手のひらのような葉っぱ。タカノツメは単純に「3出複葉」。最初この葉を見てなるほど鷹の爪みたいや!と感動していましたが、これは間違い。冬芽に由来するそうです。去年のblog 12月14日にUP!**

おっと、作業でした。毎回この展開。いかんいかん。高い木を眺めながら伐る伐らないを見極めていきます。先に調査せんかい!という意見も多数あります。ごめんなさい。しかしこの場所は一応常緑樹伐採ですので。あまり気にせず進みます。作業時間は少なく、人員も少数。少しずつですが、ヒメカンアオイ付近まで回り



トキソウ ヒメギスを乗せて (キリギリスの仲間)

込めるようになってきました。盗掘の心配もありますが明るすぎず暗すぎない疎林を目指す作業です。

少し早く切り上げ湿原へ。そろそろハッチョウトンボ(ハ丁蜻蛉)の出現、トキソウ(朱鷺草)の開花が始まる時期です。「網引湿原」からは約10日前に確認と連絡が入っています。標高低いところは早いなど

と地の違いがあるそう。よーわからん。タ○の芽しか食べたことないし。(「タ○の芽」はなーんだ?)

3つともウコギ科の木本。コシアブラは葉が5枚(掌状複葉)、タカノツメは3枚(3出複葉)。

丸山の「女王様」は大きく、高い位置に芽吹いているので採るのは困難か?若木もしばしば見られますが...採ったらあかん?里山利用の観点からはOK?難しい...

ヤマウルシ(山漆)も多い。かぶれる木。



気にせずバッサバッサと伐る人。気にせず伐って、帰ってからなんか変な感じになる人。近くにいるだけでかぶれる人。人は多様性に満ちていますね。実を好んで食べる鳥もいたり。材木は役にたたなかったり。でも紅葉はきれいですよ。

ちなみにヤマウルシは「漆」なのですが、「漆器」に使われる漆

とは別物。そちらは「ウルシノキ= ソーシャルディスタンス?安全距離漆の木」という近縁種だそうです。歴史的には弥生時代から使われていたようです。すごいですね。しかし、自生はない?自然素材最強の接着剤でもあります。現在は中国産が97%以上。といっても高価で、下塗り中塗りはカシューやウレタンが多いとか。寂しいかぎりです。が、職人の技で勝負!

**ヤマウルシは歩道沿いにもたくさん芽吹いています。弱い方は気を付けてください。赤い枝で写真のように広がります。羽状複葉というそうです。1つの軸が1枚の葉です。「複葉」というのは中学校で習っているはずなのですが、全く覚えていない方がほとんど。私も35歳ぐらいまで記憶になかった。1枚の葉が細かく小さな葉?に分かれていることか?またまた知らんけど... (責任回避)。先に1つ小さな葉(小葉)がつくと奇数になるので、奇数羽状複葉というそう。当然偶数もあり。なんかエライ勉強やな。中学生諸君!記憶にとどめよ!興味なかったら忘れるけどね。見分け方としては便利。「女王様」は「掌状複葉」なので手のひらのような葉っぱ。タカノツメは単純に「3出複葉」。最初この葉を見てなるほど鷹の爪みたいや!と感動していましたが、これは間違い。冬芽に由来するそうです。去年のblog 12月14日にUP!**



ハッチョウトンボ ♂



ハッチョウトンボ ♀



タンナサワフタギ 花

感心していました。さて丸山湿原は？第3湿原（最初の湿原）に着くとトキソウの花がちらほら。確認すると昨年も5月26日には咲いていました。まあ例年通りということなんでしょうか。ハッチョウトンボもしかり。例年との数の比較はよくわかりませんが、♂♀とも順調に羽化しているようです。



シロシタホタルガ幼虫

周辺部ではタンナサワフタギ(耽羅沢蓋木)が花盛り。タンナサワフタギといえばシロシタホタルガ(白下蛍蛾)の幼虫。なぜか条件のいい木があるようで、その木だけで幼虫が10以上も確認されました。結局共倒れのような気がします…。不思議です。写真に写っているのは5個体。よく見えませんか！目立つ幼虫ですが警戒色。毒を蓄えています。危険を感じると体からも毒を出すとか。かぶれるそうです。経験なし！



タニウツギ

他にはタニウツギ(谷空木)が目立ちました。今年は、やや少なかったような気がします。花の季節は短く、すぐに次の花の時期に移ります。それぞれ咲き分け？

### ★6月13日(土) 定期活動 梅雨入り 6名 定期基礎調査

目的	市内	市外	場所	時間	気温【水温】	電気伝導度 (EC)	PH
丸山	81	72	入口	10:02	24.6℃		
ハイキング	47	58	第3湿原	10:32	【21.2℃】		
散歩・登山	66	62	視点場	10:45	25.2℃	36.8 μS/cm	6.1
来場者数 計 386人 (竹筒ポスト人数)			第1湿原	11:07	【23.0℃】	56.4 μS/cm	6.3
			第2湿原	11:34	【21.9℃】	36.3 μS/cm	6.3

竹筒ポストの人数です。前回は400名。今回は386名。減っているようですが、市内の中間集計はしていないので前回よりも多かったのかもしれない。半信半疑で考えていたのですが、本当に入れてくれている？竹筒のキャパが少なく、あふれかえっていました。いたずらにせよ何にせよ「キャパを大きくする必要アリ」と思っています。他の保全団体ではカウンターを使っているところも多数あるようですが、基本この形を維持していきたいと考えています。イタズラはどんな状況でも可能ですし、番小屋でも建てれば別ですが。誰かやりますか？もちろん無償で。「ごんぎつね」が何か持ってきてくれると嬉しいですが、イノシシに襲われるのがオチですね。

梅雨前は雨が本当に少なく、湿原も乾き気味になっていました。そのせいか雨にもかかわらず電気伝導度 (EC) がかなり高めに出ているところも。感覚的には結構降っているんですが、山から水が出てこない。乾いた土が蓄えてしまうのでしょうか。時間の経過とともに、じわりじわりとしみ出してくる。この地域らしい光景です。その後かなりの雨量でため池も含め飽和状態になっています。今はたっぷりの水。なんか安心します。水害の危険もあるのにね…



オーバーフロー中のポスト



ノハナショウブ

花はササユリ（笹百合）の季節。あまり多くない丸山ですが、駐車場から入ってすぐから確認できました。3輪咲きのものも。点々と確認できます。湿原内ではこれもあまり多くはないノハナショウブ（野花菖蒲）。花菖蒲の原種。高貴な紫に黄色の線が目印。第3湿原で見ることができます。少し養分があったほうがいい花。第3湿原の年平均のECはいつも

少しだけ高め。関係があるのでしょうか？そう見ると面白いですね。トキソウもまだ咲いています。

これからはカキラン（柿蘭）が多く咲きだしそうです。カキランは毎年増えているように感じます。木道沿いにもたくさんあり観察にはピッタリ。ついでにモウセンゴケ（毛氈苔）の小さな白い花に心を震わせるのもお忘れなく。ただしマムシ（蝮）には注意！本当に今年は多い！くれぐれも肌の露出にはご注意ください。今回は第4湿原で遭遇しました。

珍しいところでは、ヤマトキソウ（山朱鷲草）が数年ぶりに見つかりました。



終わりがけのヤマトキソウ

（120号に記載あり）7株ぐらいい咲いていたでしょうか。地味な花で、咲かないと気づかない。草丈10cmぐらいか？トキソウは花も大きいかにもランという感じですが、ヤマトキソウは花も完全には開かないし小さい。少し乾き気味のところ、山際に生育します。43都道府県でRDB入りしています。しかし環境省RDBには入っていないのが不思議です。割とあるのに気づかない、発見されないということを環境省の専門家は知っているのか？恐るべし環境省・・・か？実はヒナノシャクジョウも環境省はRDB指定していません。兵庫ではBランク。でもこれは探せば結構ある。と自称元ヒナノシャクジョウハンターは思います。生育環境は確実に減っていますが。（偉そうな・・・申し訳ない）



トキソウ



再びハッチョウトンボ

雨の中、ハッチョウトンボも多く確認できました。間もなく最盛期か。雨のためか♀の姿は確認できませんでした。ふと振り向くとまたまた地味なランが。コバノトンボソウ（小葉の蜻蛉草）です。まさしくトンボの姿のような、花とも思えぬ花を咲かせます。しかもひ弱な雰囲気「侘び寂び」を感じさせます。しかし茶花にもならないか？野にあってこそその美しさですね。写真、手が邪魔でごめんなさい。（開花直前か？）そうそう、ツチアケビ（土

木通）はなぜか折れて消滅しました。原因は不明。数年前にも途中でダメになったことがあったと思います。気にしない気にしない！またどこかでニョキニョキ出てくるでしょう。自然は偉大だ！

**次回活動** 6月28日（日）午前通常作業（午後総会 西谷会館 できるだけ書面議決を！）

7月11日（土）26日（日）8月8日（土）16（日）サギソウ開花数調査を予定 23（日）



3輪咲きのササユリ



カキラン



モウセンゴケの花



コバノトンボソウ